

令和7年1月31日
災害ケースマネジメント研修会 資料



東日本大震災広域避難者に対する 災害ケースマネジメントについて



名古屋市社会福祉協議会
被災者支援ボランティアセンターなごや
野川 祐史
岡田 雅美

Menu

I

被災者支援ボランティアセンターなごやの経緯
と取組内容

II

災害ケースマネジメントにおける現状と課題

III

支援事例の紹介

I

被災者支援ボランティアセンターなごやの経緯 と取組内容

- 発災後に、県内の支援団体が集まり、避難者の支援窓口を設けることの必要性について協議。
- 発災約1か月後の4月14日に名古屋市社協に、「東日本大震災被災者支援ボランティアセンターなごや」を設置。
- 当初は、名古屋市社協の事務所がある総合社会福祉会館の「福祉のひろば（ロビー）」にて、開設・運営。
- センターの機能としては
 - ①市内にお住いの被災者の生活支援に関するニーズの把握とボランティアによる支援
 - ②被災地域におけるボランティア活動を希望する方に対する相談、情報
- 被災された方からの相談に対して、なごや防災ボラネットの皆さんの協力により運営・支援を実施。

平成23年4月14日開設

◎センターの運営体制 ※センター発足時

運営委員会
(市・市社協・ボラネット)

センター長
(市社協ボランティアセンター所長)

運営スタッフ・・・原則3名以上
ボラネット(2名以上)・市社協(1名)

なごや防災ボラネットとは

- 名古屋市内にある災害救援のNPOと市内16区すべてにある災害ボランティアの集まりです。
- 平成17年6月には名古屋市と「災害時における一般ボランティアの受入活動に関する協定」を結び、毎月1回の幹事会・定例会を継続・開催しております。
- 平常時は、減災について勉強会を重ね地域の防災力向上のための講座やイベント、防災訓練などの企画・運営を行います。
- 災害発生時は、被災者支援と復旧・復興のための「災害ボランティアセンター」の運営を行います。

加盟団体 ※平成24年現在

- レスキューストックヤード
- 災害ボランティアコーディネーターなごや
- 防災ボラネット守山
- 名古屋みなと災害ボランティアネットワーク
- 名古屋みどり災害ボランティアネットワーク
- 名古屋きた災害ボランティアネットワーク
- 天白でいぶい
- 名東区災害ボランティアの会
- 名古屋ひがし防災ボランティアネットワーク
- 名古屋みなみ災害ボランティアネットワーク
- 名古屋なかがわ災害ボランティアネットワーク
- 名古屋みずほ災害ボランティアネットワーク
- なごやにし防災ボランティアの会
- なごや防災ボランティアネットワーク昭和
- なごや中村災害ボランティアネットワーク
- なごや防災ボランティアネットワークなか
- あつた災害ボランティアネットワーク
- 災害ボランティアちくさネットワーク
- あいち防災リーダー会名古屋ブロック
- Bi-Vo

開設当初のニーズ

- 生活用品・照明器具がない。
- テーブル・椅子が欲しい。
- 炊飯器が欲しい。
- 冷蔵庫・クーラーボックスでも
- 生活資金がない。
- 家具の組立手伝いしてほしい
- 自転車 that 欲しい。
- 地理が判らないので買い物・病院が判らない。
- 話し相手が欲しい。
- 扇風機・クーラーが欲しい。

最近のニーズや支援事例

- 子供の進学に関する費用について、相談にのってほしい
- シングルの家庭で仕事をかけもちでやっており経済的に厳しい、心身ともに不安定
- 東北の地元土地に土地や家があり、経済的な負担が大きい
- 子どもが不登校のため、勉強を教えてくれるような場を教えてください。
- 精神疾患を抱えるケースの見守り・通院付き添い
- 認知症のケースの、ケアマネや傾聴ボラ等と連携した支援

◎お茶っこサロン

<目的>

「お茶っこサロンなごや」は、東日本大震災によって名古屋市に避難されている方の孤立防止や仲間づくり、リフレッシュを目的として、避難されている方同士が出会い、おしゃべりや交流を楽しんでいただく場です。「お茶っこ」は、東北の言葉で「お茶をする」という意味です。

<主催者>

被災者支援ボランティアセンターなごや（設置：名古屋市、運営主体：名古屋市社会福祉協議会、運営協力：なごや防災ボラネット）

<開催実績>

平成24年8月より開催し、これまでに62回開催
（当初は年12回開催、現在は年2回開催）

◎お茶っこサロン

◎語り部ボランティア事業

＜目的＞

当時の被災体験や、今に至るまでの道のりを当時の写真や資料を示しながら伝えるとともに、今後災害を迎えるであろう名古屋に住む人たちへのメッセージを伝えることで一人一人の防災意識を高め、被災者への理解を深める機会とすること。

＜対象＞

語り部による話を聞くことを希望する団体（学校、企業、各種団体、サロン等自主的な集まり）

＜語り部ボランティア＞

被災者等6名の方が語り部ボランティアとして協力

＜実績＞

令和3年より69回開催し、これまでに1,663人の方が受講

◎語り部ボランティア事業

Ⅱ

災害ケースマネジメントにおける現状と課題

＜現状＞

- ・毎月、被災者支援ボランティアセンターなごや内において、職員間で個別ケースの支援について検討。
- ・個別支援をしながら、地域住民の見守りや各相談機関につながるなど、社協が把握・連携している多機関や住民等と連携しながら支援。
- ・困難ケースについては、県被災者支援センターが実施しているパーソナルサポート支援チーム会議にて検討。

＜課題＞

- ・避難時当初の相談から、相談内容が一般化してきているが、その内容は、子の不登校、家庭問題、経済的な問題、健康問題等と多岐にわたり、また、複雑化している。
- ・そうしたことから、今後はより、介護保険関係事業所(ケアマネジャー等)、障害者基幹相談支援センター、NPO、各士業、行政、ボランティアを含めた地域住民等との連携した支援が必要。

＜これからのセンター運営（社協が担う意義）＞

- ・避難者の思いを行政に伝えていくのは社協の強み。そのため、避難者からの声や災害ボランティア・NPO団体の声と、行政間との調整役としての機能を高めていきたい。
- ・名古屋への避難者の方にとって、センターが今後も継続して存在していくことが、被災者の安心感にもつながる。
- ・今後も、東日本大震災による避難者、能登半島地震による避難者に対して、愛知県被災者支援センター・各士業・行政・なごやボラネット・地域住民の方々等のご協力のもと、被災者の困りごとに寄り添い、支援していくセンターでありたいと考えています。

Ⅲ

支援事例の紹介